

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第3号(7月))

標記について、次のとおり発表します。

《7月の病虫害発生予報》

＜作物＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				縞葉枯病 (ヒメビウンカ)		
			セジロウンカ			
				ニカメイガ		
			フタオビコヤガ			
				ジャンボタニシ		

＜果樹類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				褐斑病		
				晩腐病		
				アザミウマ類		
もも					せん孔細菌病	
				シンクイムシ類		
		クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん				黒点病		
				そうか病		
				かいよう病		
				ミカンハダニ		
				アブラムシ類		
いちじく				アザミウマ類		
果樹類全般				果樹カメムシ類		

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		うどんこ病	
			灰色かび病			
			褐紋病			
			ミナミキイロ アザミウマ			
			ミカンキイロ アザミウマ			
非結球 あぶらな科 葉菜類			コナガ			

<花き類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病			
			白さび病			
			アザミウマ類			

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類 全般			アブラムシ類・ ウイルス病害			
			ハモグリバエ類			
			コナジラミ類			
			ハスモンヨトウ			
			オオタバコガ			
					シロイチモジ ヨトウ	

《今月のトピックス》

■発生が平年よりやや多く見られる病害虫

病気や害虫は発生初期の防除が重要です。

【水稲】

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）が、昨年の多発を受けて並～やや多い予報となっています。

【果樹】

もものせん孔細菌病がやや多い、もものシンクイムシ類が並～やや多い発生となっております。注意が必要です。

【野菜】

なすのうどんこ病が、先月に引き続きやや多い予報となっています。

【野菜類・花き類全般】

シロイチモジヨトウが、先月に引き続きやや多い予報となっています。

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【もも】クビアカツヤカミキリ

一部地域で発生・被害が見られます。ほ場内をよく見回り、成虫やフラスを見つけたらしっかりと対策しましょう。ももの他にうめやすもも等のバラ科果樹で被害が確認されています。

具体的な対策については、4月11日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を参考にして下さい。病害虫防除グループホームページ参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

【非結球あぶらな科葉菜類】コナガ

ジアミド系農薬への抵抗性が確認されています。

《(参考)7月の気象予報》(大阪管区气象台6月28日発表)

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (50%)	平年並 (30%)	多い (20%)
日照時間	少ない (20%)	平年並 (30%)	多い (50%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の葉いもち及び穂いもちの発生は少なかった。 ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・置き苗が発生源になるので、早く処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤耐性菌の発生が報告されている。 ※QoI 剤成分例：アゾキシストロビン（アミスターエイト）、オリサストロビン（嵐粒剤）、メトミノストロビン（イモチエース粒剤、オリブライト 250G）等
縞葉枯病 （ヒメトビウンカ）	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。
セジロウンカ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯への飛来数はやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常飛来があった場合は、急激に密度が高まる恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意する。
ニカメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯、フェロモントラップへの飛来は平年と同様に見られなかった。 ・昨年度のほ場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。
フタオビコヤガ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生は、平年並であった。 ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。
ジャンボタニシ （スクミリンゴガイ）	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のほ場での発生はやや多かった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水深 4 cm 以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は捕殺する。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査の結果、ハウスでは発生は平年並であった。露地ではやや多かった。・7月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・5月～10月に降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。露地デラウェアに多い。
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では発生は平年並であった。・7月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・露地デラウェアに多い。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。・7月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度発生があったほ場では予防散布に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。露地デラウェアに多い。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none">・巡回調査では、被害は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none">・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none">・大粒系品種では果実の傷や果軸の褐変が起りやすい。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、やや多い発生であった。 ・巡回調査では、葉、果実ともに発生が確認された。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる被害葉、果実を除去し、適切に処分する。 ・降雨前後の薬剤防除が効果的である。収穫期を迎えているので、薬剤散布の際は収穫前日数に注意する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
クビアカ ツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において被害が確認されている。 ・発生が確認されていない地域でも発生に注意し、ほ場をよく見回る。 ・6月～8月に成虫が羽化する。幼虫は4月～10月頃にかけてフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物でうどん状に固まる）を排出する。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>成虫は見つけ次第、捕殺する。</u> ・うどん状のフラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入するか、針金で幼虫を突き刺し殺虫する。 ・株元から2m程度の高さまで4mm目合のネットを2重に巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に移動するのを防ぐ。ネットを樹幹に密着させると噛み切るので、余裕を持たせる。 <p>※詳しくは4月11日発表の防除情報を参照。</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。
かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期～幼果期の防除を徹底する。

ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・7月の気温は高く、降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・梅雨明け後、加速的に増殖する場合がありますので注意する。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避ける。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿における果樹カメムシ類の発生は「多い」と予想されている（農林水産省：平成30年6月13日付け「平成30年度病害虫発生予報第3号」）ので、今後の情報に注意する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・7月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。(QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナム)、SDHI 剤 (アフェット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。) <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が23~28℃位で、湿度が高い条件で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。
灰色かび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は少なかった。 ・7月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので、花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病は、多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤 (シグナム)、SDHI 剤 (アフェット、カンタス、シグナム) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや多かった。 ・7月の降水量は少なく、日照時間は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤 (アミスター、ストロビー)、SDHI 剤 (アフェット) は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

褐紋病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はここ数年の平年よりやや少なかった。 ・7月の降水量は少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内の排水を良好にし、密植を避け、チッソ肥料が過剰にならないよう注意する。 ・胞子の飛散により発生が拡大するので、発病した葉や果実、枝は直ちにほ場外へ持ち出して処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分注意する。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、多発生時には防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。
ミカンキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。

2 非結球あぶらな科葉菜類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

D 花き類
きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。
白さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。
アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉の被害防止のため、膜割れ（蕾から着色した花卉が見える前）前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉に被害を及ぼすミカンキイロアザミウマ等の他に、葉に被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等がある。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病害	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため抜き取り、または株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。
ハモグリバエ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1日間太陽熱により土中の蛹を殺すこと（晴れの日丸1日ビニール1枚敷き）で、次作の被害を軽減できる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。

コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色粘着トラップへの誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を媒介する。
ハスモンヨトウ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）の防除を徹底する。卵塊や集団にいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は先月に引き続きやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）の防除を徹底する。卵塊や集団にいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・6月15日防除情報発表。
オオタバコガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 ・7月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生予測モデルでは、本年第1世代成虫の発生ピークは、6月末～7月初頭と推定される。従って幼虫の防除適期はその7～10日後の7月上中旬と予想される。 ・発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ
(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。



- 病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



- おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)



- Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

